

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和8年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	:十分達成できている
B	:おおむね達成できている
C	:やや不十分である
D	:不十分である

学校名	武雄市立武雄中学校
1 前年度 評価結果の概要	・多様性を認め・多様性を認・多様性を認め合い、合意形成する力を育む学級経営の充実を図る。～自己肯定感を高める道徳教育・特別活動を通して～ ・フォーサイト手帳の活用を通してPDCAサイクルを意識させ、目標に向けた自己調整力の向上を図る。 ・学校、家庭、地域の協働により総合的な学習の充実を図り、ふるさとを愛し、ふるさにと貢献したいと思う生徒の育成を図る。
2 学校教育目標	主体的・協働的な学びを通して自己実現をめざす生徒の育成
3 本年度の重点目標	①PDCAサイクルを意識させ、目標に向けた自己調整力の向上を図る。 ②「発達支持的・課題予防的生徒指導」を基盤とし、個性の伸長と社会的資質・能力の向上を図る。 ③教職員が健康的に業務ができる環境整備(DXを含む)に努め、質の高い教育を実践する。

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目				最終評価				主な担当者
評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価		学校関係者評価		
	取組内容	成果指標(数値目標)		達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ・主体的な学習者の育成へ向けた個別最適な学びと、協働的な学びの充実～DXとフォーサイト手帳の活用を通して～	○ICTやデジタルドリルを効果的に活用して、自分に合った学習に取り組んでいると回答した生徒80%以上 ○私は、友達の見聞を聞いて考えを広げたり深めたりしながら課題解決に取り組んでいると回答した生徒90%以上 ○フォーサイト手帳を活用して計画を立てて学習や生活をしていると回答した生徒70%以上	・業績評価において授業改善のための評価指標を立て、授業実践を行う。 ・授業中や家庭学習にデジタルドリルを活用させることで、基礎基本の定着を図るとともに生徒の主体的な学びや自己調整力の育成につなげる。 ・朝の会と帰りの会でフォーサイト手帳を活用して生徒に見通しと振り返りをさせるための指導と評価を行う。					★学力向上Co ICT教育担当
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○支持的風土を醸成する取り組みをしている教師80% ○「自分の役割や出番があって楽しい」と回答した生徒80%以上 ○「学校は困ったときに相談できる環境である」と回答した生徒が80%以上	・学級活動の充実を図る。実態に応じて構成的グループエンカウンター、ソーシャルスキルトレーニングなどを取り入れ、計画的に行うことで、よりよい人間関係をつくる。 ・生徒会活動や学校行事等さまざまな場面において、生徒に役割と出番を与え、認め合う場を設定する。 ・前期は道徳科でピアサポート活動を実施、後期はピアサポート活動を学校行事を通して実践の場で活用していくことで生徒にとって相談しやすい環境を作る。					★道徳主任 ★研究主任 人権・同和教育担当 生徒会担当 特別活動担当
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「先生は、いじめや悩みがあれば早くきちんと対応してくれる」と回答した生徒90%以上 ○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員100%	・毎月第3木曜日にいじめアンケートを実施する。 ・アンケートに記載された内容は漏れなく聞き取りを行い、複数職員で早急に対応する。 ・いじめの認知について、教職員の共通認識を図り、適切な支援・指導及び未然防止に全職員で取り組む。 ・いじめ対応に関する研修会を全職員向けに9月に実施する。 ・臨場指導を行い、気になる生徒の情報共有と組織的な対応を行う。					★生徒指導主事
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒90%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」と肯定的な回答をした児童生徒75%以上	・佐賀県教育の合言葉「ほめるから、はじめる。はじまる。」を意識した生徒対応を行う。 ・各種体験活動は、生徒にとって、PDCAサイクルによる主体的な学びとなるように計画的に行い、キャリア教育の充実を図る。 ・キャリアパスポート及びフォーサイトの活用					★進路指導主事
○教育相談体制の充実	○不登校生徒6.5%以下	・教育相談部連絡会を週に1回開催し、気になる生徒に対する初期対応及び深刻な問題へ発展しないための組織的対応を行う。 ・保健室入室者や欠席者、気になる生徒を全職員で把握し、対応する体制を強化し、予防や早期発見を図る。 ・カウンセリングの申し込みの仕方や日程を教育相談便りで周知する。スクールカウンセラーの活用を工夫し、全生徒への支援を充実させる。 ・ほっとルーム及びスクラムの効果的な活用を工夫し、関係機関と連携しながら生徒それぞれに合った支援体制を構築する。					★教育相談主任	
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力」	●「健康に良い食事をしている」生徒90.0%以上 ○朝食をとって登校する生徒89.0%以上	・食事、健康に関する調査の実施(年に2回:6月と11月) ・食育だよりの発行 ・食育にかかわる授業実践(担任と栄養教諭による授業) 1年生:カルシウム摂取の大切さについて 2年生:早寝早起き朝ごはんについて 3年生:食の自己管理能力について					★栄養教諭 給食主任
	○基本的な生活習慣の定着と自ら健康づくりに取り組む生徒の育成	○「睡眠時間を8時間以上とっている」と回答した生徒70%以上	・睡眠の大切さを伝え、睡眠時間を8時間以上とることを目安として健康増進を図る。 ・保健だよりを発行する。 ・生徒の生活状況を聞き取り個別指導を行う。					★養護主幹 養護教諭 保健主事
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●「武雄市立小中学校の教職員に関する業務量管・健康確保措置実施計画」に基づいた業務の効率化 ・時間外在校時間(個人)が月平均45時間以下の割合100%(1年間合計/12カ月) ・時間外在校時間(全職員)の月平均時間30時間程度 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・定時退勤日の推進(毎週水曜日設定) ・業務記録票を活用し、ヒアリング等をもとに相談や指導を行い、時間外労働時間の縮減に向けた業務改善につなげる。 ・衛生委員会にて業務の効率化・改善を検討する。					★管理職 養護主幹
	○適正な部活動の運営	○休養日を適切に設定し、活動と休養のバランス(平日の活動時間は週8時間程度)を図った部活動運営を行った」と回答した教師90%以上	・部活動運営計画に則り、活動時間の縮減及び休養日を必ず設定する。 ・毎月第3日曜日の「県下一斉部活動休養日」の実施。					★部活動担当
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○特別支援に関する専門性が向上した教員85%以上	・特別支援教育に関する研修会を実施する。 ・特別支援部会で共通理解を図り、全職員による組織的な支援体制につなげる。					★特別支援教育Co
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目								主な担当者
評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価		学校関係者評価		
	取組内容	成果指標(数値目標)		達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○探究学習の充実	○自らの生き方を考えるために、問いや課題を見出し、探究的に学習し、解決・行動する態度の育成	○「この時代を生きる自分の進路・生き方についてよく考えることができた」と回答した生徒80%以上	・学年の段階に応じ、地元各界のゲスト・ティーチャーに学ぶ(講話・活動等)機会を設ける。 ・調査活動など実践方法や得た成果や派生して生まれた新たな課題への解決方法、成果を表現する方法について指導する。					★総合学習担当 進路指導主事 各学年主任
○安全教育の充実	○安全な生活環境の確保	○「学校は安全に過ごせる」と回答した生徒90%以上	・安全点検と避難訓練を実施し、生徒・教職員の安全の確保、交通事故・生活事故防止に努める。 ・PTAとの連携(朝のあいさつ運動時の交通指導等)					★安全教育担当

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・ ・ ・
----------------	-------------